



新型コロナウイルス感染症の拡大防止に心がけながら、子どもたちは、仲間と共に学び、活動する学校生活のかけがえのなさ、楽しさを味わっています。学校では、子どもたちが健康で安全かつ充実した学校生活が送れるようにさまざまな工夫をしながら教育活動を進めています。

学校でこんなことをしたよ!



生活科で大きなシャボン玉を作りました。



理科の自由研究で紙飛行機をとばしました。



道徳科で、登場人物の行動について考えました。



春に職員が植えた植物も大きく育ちました。草とりをがんばっています。



1年生は、6年生と一緒に清掃活動。おかげさまで掃除も上手になりました。



無言給食だけれど、やっぱり給食はおいしいな。

新型コロナウイルス感染症予防に努めています



「新型コロナウイルス感染症予防」の勉強をしています。



毎朝の登校時と諸活動の前後に、手洗いをしっかりとしています。



子どもたちが帰った後は、職員が協力して、机・イスなどを毎日消毒しています。

広島研修

八月六日の朝

弥富北中学校 奥野 真邦

【広島に落とされた原子爆弾】

原子爆弾は1945年8月6日8時15分に広島に落とされました。当時、広島市の人口は約35万人いましたが、そのうちの約14万人が原爆の爆風や、被爆したことによる二次被害で1年のうちに亡くなってしまいました。

広島に落とされた原爆は「リトルボーイ」と呼ばれる核爆弾です。この爆弾の威力は凄まじく、多くの犠牲者が出ました。爆弾が爆発したことによる「爆風」や「熱線」による被害だけではなく、「放射線」などによる二次被害など、長い間、多くの人々を苦しめることとなりました。

【被爆者体験講話を聞いて】

講話をしていただいた方は「大越和郎」さんです。大越さんは、五歳の時に被爆されたそうです。原爆が落ちた瞬間、あたりが見えなくなるほどの眩しい閃光に覆われ、大きな揺れとともに爆風が押し寄せてきたそうです。その後、放射線が混じった「黒い雨」が降り、放射線の被害をさらに広げました。その被害を受けた多くの方が「原爆症」となり、多くの犠牲者を出したそうです。

私は実際に被爆された人のお話を聞くのは初めてでした。被爆者の方のお話を聞いていると、戦争のつらさや恐ろしさがリアルに伝わってきました。被爆者の方の体験談を直接聞くことで、改めて「戦争は絶対に繰り返してはならないものだ」と実感することができました。

【広島研修を終えて】

原爆を落とされた場所である広島を直接見ることによって、私はたくさんの衝撃を受けました。資料館では、戦争によってさまざまな被害を受けた方々の写真や絵、遺品などがたくさん展示されていました。目を背けたくなるような内容もたくさんありました。しかし、唯一の被爆国である日本だからこそ、目を背けるのではなく、二度とこのようなことが起きないように全力を尽くすべきだと感じました。今回の広島研修を通じて学んだ平和への思いを、今後もずっと忘れず、後世に伝えていきたいと思います。二度と悲惨な戦争が起きないように、世界の平和について考え続け、今の自分にできることを実行していきたいと思っています。



広島で学んだこと

弥富北中学校 市川 小粋

【平和への道 ～オバマ大統領の訪れ～】

広島研修の事前学習で、広島を訪れたオバマ大統領のスピーチをもとに書かれた本を読みました。「広島を訪れる」ということは、「原爆について考えること。平和について考えること」だと私は思います。それを、「アメリカの大統領が実行した」ということは、とてもすばらしいことだと感じました。オバマ大統領の演説の中には、「いつか、証言する被爆者の声が聞けなくなる日がくるでしょう。しかし、1945年8月6日の朝の記憶を薄れさせてはなりません。」という言葉がありました。私もそう思います。忘れてしまうことが最もよくないことだと思います。そのためにも、広島で学んだことを自分の学びとしてつなげていきたいと思います。

【原爆の被害と子どもたち】

1945年8月6日8時15分、広島に原爆が落とされました。当時の広島市の人口は約35万人で、原爆によって約14万人の命が奪われました。この中には私たちと同じ中学生も数多く含まれています。

当時の中学生は、農作業や軍服づくりなど、とにかく日本のために働いたそうです。そのため、当時の中学生はほとんど勉強をすることができなかったそうです。特に中学3年生以上になると、全く勉強する時間をもてなかったそうです。

また、爆弾が落ちて火災が広がることを防ぐために、あらかじめ建物を壊しておく「建物疎開」の労働を、8000人ほどの中学生が行ったそうです。過酷な労働をしながら、そのうちの6300人ほどが原爆の被害によって亡くなったそうです。

【感想】

今回の広島研修を通じて、改めて「原爆」や「戦争」と向き合うことができたように思います。「原爆」や「戦争」について、五感を使って直接体験できたことで、その悲惨さや苦しみを実感として受け止めることができました。やはり、実際に原爆の被害にあわれた方のお話は言葉の重みが違い、当時の状況をより深く学ぶことができました。

広島研修では様々なものを見たり、話を聞いたりしましたが、私の心に最も印象強く残っているのは原爆ドームです。絵や写真で見るとはまったく違いました。眺めているだけで、原爆の悲惨さや恐ろしさについて、原爆ドームに語られているような気になりました。二度と戦争を起こさないためにも、世界中の人々に現地で実際に原爆ドームを見てもらい、平和の大切さについて考えてもらうことが大切だと感じました。私にとって、忘れることのできない貴重な体験となりました。

